

Trends in Radiology-Related Medical Lawsuits Identified by a Legal Database Search

メタデータ	言語: English 出版者: 公開日: 2018-10-20 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 山城, 雄貴 メールアドレス: 所属:
URL	https://jair.repo.nii.ac.jp/records/2002369

授与機関名 順天堂大学

学位記番号 乙第 2432 号

Trends in Radiology-Related Medical Lawsuits Identified by a Legal Database Search

(法情報総合データベースを用いた放射線科領域における医療訴訟の検討)

山城 雄貴 (やましる ゆうき)

博士 (医学)

論文内容の要旨

近年医療訴訟に対する関心は高まっており、現在でも新規医療訴訟件数は年間 800 件以上にも上っている。放射線科領域においても関心は高く、医療訴訟への対応、予防対策が重要である。本研究の目的は放射線科領域に生じた過去の事例を分析し、放射線科での訴訟となりやすい項目と原因を明らかにするし、さらに放射線科領域に起こりやすい医療訴訟を回避できるように対策を検討することである。判例検索システム「D1-Law.com (第一法規)」を用いて検索した。放射線科関連キーワードを「 α 」として、「 α 」×「医療」×「損害賠償」として検索を行った。 α として「画像診断」「放射線科医」「CT」「MRI」「単純写真」「核医学検査」「血管造影」「脊髄造影」「造影剤」をキーワードとした。1965 から 2013 年に発生して判決の出た医療訴訟を対象とした。3383 件がヒットし、放射線科医が実際に関与している症例は 35 例であった。これらの判例を項目ごとに損害認容、棄却に分類した。それぞれの訴訟の争点を、手技、インフォームドコンセント、診断・読影に分けて検討した。また、裁判所の判決文からは因果関係の有無、処置・判断が適切であったかという点から損害認容、棄却の傾向について検討した。因果関係が認められる。または処置・判断が不適切であるとした場合には損害が認容される傾向であった。因果関係が認められず、処置・判断が適切であったとされた判例では棄却される傾向となっていた。

年代における発生件数の推移では 1980 年代までは徐々に増加しており、1990 年代に急激に増加した。その後 2000 年代からはわずかな減少に転じていた。項目ごとの医療訴訟の発生頻度は血管造影が高かったが、血管造影での損害認容と棄却の件数に特徴的な傾向は指摘できなかった。

血管造影での手技のミスや画像診断での見落とし、誤診断は訴訟の主な原因となる。血管造影では手技の向上に加えて、血管造影前後での患者とのコミュニケーションと信頼関係の構築が重要である。加えて、画像診断での見落としを防ぐ工夫や、所見から考えられる疾患の妥当性についての再検討が必要と考える。